

(別紙様式)

(A3判横)

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立東松山特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進し、「生きる力」を育成する学校
--------	--

重点目標	1 教職員の専門性の向上 2 安全な教育環境の整備 3 自立と社会参加に向けた支援の充実 4 開かれた学校づくりとセンター的機能の充実
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○昨年度からアセスメント(太田ステージ)について研修を行い、各学部で、実際に児童生徒へアセスメントを実施してきた。児童生徒の実態把握について、教職員間の共通理解が図られてきた。 ○国算数の情報交換会をとおし、各学部の取組や児童生徒の状況についての理解が進んだ。	①教員の専門性と指導力及び授業力の向上	①授業公開の方法を工夫し、研修の充実を図る。 ②各教科等の情報交換会を実施する。 ③全校研修を計画的に実施する。	①研修の成果を生かした授業公開を実施できたか。 ②情報交換会をとおして他学部の学習内容に関して理解を深め、授業改善に生かすことができたか。 ③研修会を計画的に実施できたか。	・年次研修、学部授業公開などを計画的に実施した。研究授業後の意見交換を紙面(メモ)を活用して行うなどの工夫がされ、より多くの教員による意見の交換ができた。 ・教育課程発表会を実施した。学部内、他学部の実践を交流する場となった。 ・太田ステージに関する研修会を昨年度に引き続き実施した。	A	・全校の研修会において、実際の取組、実践の報告は行っている。次年度研究の3年目を迎え、まとめの時期となるので、これまでの研究・研修を受け、成果をまとめていくことが必要である。 ・教育課程委員会と連携し、学習指導要領の改訂を踏まえた教育課程作りに取り組む必要がある。
2	○災害備蓄品の購入、保管場所の確保はすすんだ。災害時、緊急時の対応など、マニュアルの整備は進めつつあるが、教職員、保護者への周知まで至っていない。	①災害時、緊急時の対応についての再確認	①災害対策マニュアルの見直しと周知を徹底する。 ②緊急時対応(児童生徒の引渡し、不審者対応等)について整理し、周知徹底する	①災害時の対応について見直しできたか。 ②不審者侵入時の対応、緊急時の児童生徒引渡しについて、整理し、教員及び保護者に周知できたか。	・防災マニュアルの見直しを行った。 ・災害時、緊急時の児童生徒の保護者への引き渡し方法について検討した。特に「引き渡しカード」は新たに書式を変更し、保護者が携行できるようにした。来年度から運用するように準備を進めた。	B	・災害マニュアルについては更に簡略化し、災害時・緊急時の児童生徒の引き渡し方法を含め、保護者への周知が必要と思われる。
3	○高等部教育課程の複数化では、昨年度末から試行期間を設ける、保護者面談を行うなど準備を進め、今年度より、高等部2・3年生で、教育課程の複数化がスタートした。 ○近年、発達障害の児童生徒の在籍が増加傾向にある。特に、知的な面に限らず対人関係や精神面などの課題では教育的な視点だけでなく、医療機関、専門家等との連携を必要とする児童生徒も在籍している。	①高等部の教育課程の複数化の検証 ②個に応じた指導の充実	①高等部教育課程複数化委員会、高等部を中心に、教育課程のあり方について検証を進める。 ②外部専門家を活用し、教員及び保護者の相談を実施する。 ③支援プランを活用し、児童生徒の課題を保護者との共通理解を進める。	①高等部の新教育課程についての課題を明確にできたか。また、次年度に向け、解決の方策を見つけることができたか。 ②外部専門家の相談の内容を保護者と共有できたか。また、支援に生かすことができたか。 ③家庭訪問、個別面談等で支援の内容、合理的配慮について共通理解を図ることができたか。	・高等部での新教育課程がスタートした。より個々の実態に合わせた教育内容の提供ができるようなシステムはできた。また、実施上の問題点を挙げ、次年度に向けた改善策も進めている。 ・精神科医による教育相談を年間26ケース実施した。主に障害特性を踏まえた実態把握について、事例を挙げた研修会を実施した。 ・支援プランは、保護者との連携のもと作成した。評価を保護者にフィードバックする機会が年度末に設けられていない学部があった。	A A	・学習指導要領の改訂に向け、更に教育課程の各教科等の内容を検討していく必要がある。 ・教育相談の希望の件数が多いなど、ニーズの高さが伺われる。引き続き外部講師を活用し、指導に役立てていくことは必要である。 ・支援プランに係る年間の予定を見直し、個別面談等により更に保護者と連携を図る
4	○これまで、年2回の学校公開、コーディネーターを中心とした教育相談を行ってきた。福祉サービスの充実に伴い、連携すべき関係機関も増加している。また学校就学相談のあり方も変化してきており、より学校の情報を適切に地域へ発信していく必要がある。	①学校情報の適切な提供	①学校公開の目的を確認し、関係機関、保護者へ周知を図る。 ②各教育委員会との連携を密にし、学校就学相談に係る教育相談を適切に実施する。 ③HPの内容を適切に更新する。また、内容の充実を図る。	①学校公開において、関係機関への参加を積極的に働きかけられたか。 ②各教育委員会と連携し、就学相談を進めることができたか。 ③HPが適時更新されたか。また、情報は適切であったか。	・学校公開についてはその目的を整理した。 ・学区内の教育委員会と連携し、就学・転学に係る相談会を丁寧に行うことができ、適正な就学、転学につなげられた。 ・HPの更新は各部署で適時行った。	A	・引き続き各教育委員会との連携を進める。 ・分かり易い情報の提供を心がけ、学校公開、HPの運営を行う。 ・メール配信システムは学校からの情報を得るうえで役立つ。しかし、まだ知らない保護者もいるようなので、定期的に文書などで周知するとよいと思う。 ・学校間交流で、障害理解についての出前授業をしていただいた。小学校でのインクルーシブ教育推進に大変役立ち、感謝している。

実施日	平成30年2月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・太田ステージを活用して教育活動を行うことは保護者の学校満足度の向上にもつながると思う。今後に期待している。 ・いつもきめ細かいご指導をいただき感謝している。子どもは本校に入学後、毎日楽しそうに通学している。 ・夜間及び休日における校門の施錠方法が改善されるなど、不審者対策にはよく取り組んできていると思う。 ・有事の際、災害備蓄品がすぐに活用できる態勢を整備するとよい。また、避難経路の周知徹底をしてほしい。 ・高等部の教育課程複数化は、学校の実情を踏まえた取組であり、評価できる。他校の情報収集等をしてさらなる充実に取り組んでいただきたい。 ・企業側としては特別支援学校卒業生を受け入れる態勢づくりを進めつつあるところである。学校と連携し、生徒の就労に向けた可能性を広げていきたい。 ・精神科医による教育相談は保護者として満足のいくものだった。今後も継続してほしい。 ・支援籍学習に積極的に取り組んでいると感じる。 ・個別面談の充実を図ってほしい。また、来校時に、先生と保護者が短時間でも直に話すようにすると、保護者の率直な意見を把握しやすくなると思う。